

## ★2021年度 都内草の根助成 書類選考通過団体

～私たちの生活圏であり、身近な地域である東京都内の市民活動を応援する助成です～

※3団体に投票してください

団体番号	団体名	助成の対象となる事業名と事業概要（応募用紙から）	申請額 (万円)
都1	小平学・まちづくり研究所	引きこもり支援「ひまわりのおうち」 (※ひきこもり者に対して)小平市は2019年末に小平市社会福祉協議会の支援で家族の会準備会(仮称)が発足し、コロナ禍で中断するまで1~2カ月に1回開催により家族支援のための取り組みが始まった。「小平学・まちづくり研究所」では主に「家族の会準備会」の方々を対象に学習会を開催し、2021年度からは家族の会、当事者を対象に居場所づくりの取り組みもスタートさせた。(本助成事業では)引きこもり、不登校の当事者の居場所づくりや相談支援の取り組みをさらに充実強化させるために「ひまわりのおうち」と名付け、当事者や家族が集いやすい居場所づくり、相談支援、学習会や先進事例の見学会を進める。	50
都2	特定非営利活動法人glolab	NEWDOOR 奨学金プログラム 家族滞在や公用の在留資格を持つ高校生を対象に、奨学金プログラム制度を新たに構築する。このプログラムのねらいは、受験自体を諦めたり、受験校を一つに絞らざるを得なかったりといった事情を抱える生徒たちの進路に新たな選択肢を与え、壁を乗り越える力を醸成することにある。具体的には、10万円の奨学金を給付することで、高等教育機関の受験機会を提供する(※本助成金外)。さらに基礎学力向上の学習支援並びに一年間の教育プログラムを実施し、学力向上とあわせて、限られた奨学金の情報にアクセスするための情報収集の方法や、マネーリテラシーを高め、生徒自身で生活基盤を築き人生を切り開いていけるようにしていく。	50
都3	いちほの会	一時保護所環境改善に向けたアドボカシー/イベント開催/普及啓発 一時保護所の職員や経験者、児童相談所の児童福祉司、心理担当、弁護士、里親、児童福祉関係者などによる保護所の課題や改善策を考えつながらりを作る場である「スタッフ交流会」、一時保護所の職員と一時保護経験者が登壇し公開で語り合う「経験者と職員が語る会」、一時保護所での勤務経験(心理士)がある研究者(大学助教)による「オンライン自主学習会」、アドボカシーの一環として一時保護所の課題や取り組みを広く知ってもらうための誰でも参加できる「オープンイベント」の開催などのほか、ホームページやSNSでの情報発信を通じた一時保護所の実情の発信、ロビイング活動・アドボカシーを目的とした勉強会の実施などを行う。	48
都4	カフェ塾テラコヤ	カフェ塾テラコヤ 池袋において、定休日のカフェや企業のオフィスをお借りし、周囲に大卒者、大学受験生がおらず、大学受験知識に関わる知識が得にくい状況にある高校生を対象として、高校教員経験者が中心となり大学生ボランティアによる無償の学習支援活動、大学受験指導、受験校・奨学金選びからサポートを行っている。(※活動継続のため本助成を申請)	50